

呼吸苦を契機に診断された巨大上行大動脈瘤の1手術例

伊達 数馬¹、酒匂 祐里¹、秋山 大地¹、山本 哲史¹

¹ 国保旭中央病院

【はじめに】10 cm を超える上行大動脈瘤の報告は稀である。今回、最大径約 15 cm の巨大上行大動脈瘤を経験したので報告する。

【症例】58 歳男性。3 か月前から呼吸苦が出現し増悪したため前医を受診し、当初は右胸腔内腫瘍が疑われ紹介となった。精査で最大短径 15 cm の巨大上行大動脈瘤と診断し、右肺動脈・上大静脈は著明に圧排され、右肺下葉も高度に虚脱していた。呼吸状態悪化のため挿管・人工呼吸管理後、家族同意のもと生体弁を用いた大動脈基部置換術・部分弓部大動脈置換術を施行した。術後は脳梗塞、せん妄、正中創離開、菌血症を合併したが集学的治療により改善し、第 113 病日に自宅退院した。術後 1 年半現在も外来通院中である。

【まとめ】呼吸苦を契機に診断された巨大上行大動脈瘤の 1 例を経験した。術前・術後管理には社会的背景への配慮を要したが、多職種介入により救命・社会復帰が可能であった。比較的若年で生体弁を使用しており、今後も家族支援を含めた慎重な長期フォローが重要と考えられた。

